

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_a	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	単元に応じて配布				
担当教員情報					
担当教員	川島 基宏/甲原 圭		実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー/作曲家	
学習目的					
1年で学んだ作曲編曲の技術を2年生ではさらにDAWの中でより精度を磨いた形で作品にしていく。 ミックス・マスタリングにより深い考察と理解をする。 エフェクトや波形編集においては、より音楽性が豊かに感じ取られるトラック制作への知識と技術を身につける。					
到達目標					
実践的なミックスが実現できるように、講義だけではなく各自の作品のDAWデータを見ながらできるだけ解説をする。昨今の音楽は音の仕上げにおいてより複雑でインパクトのある音楽が求められる。EQ、コンプ、リバーブなどの考え方をより深めることによって現代のニーズに応えられるミックスの技術を磨く。また生楽器のミックスではより自然な音にするという事がどういうことなのかを学ぶ。 エフェクトを考える意味合いも常に「音楽的」でありことを前提に工夫する思考を磨きたい。 Real Dreamsや卒業制作に反映させる。					
教育方法等					
授業概要	一人ひとりの作品のプロジェクトファイルをモニタリングしながら、それぞれのトラックにしかけてあるプラグインエフェクトや音色に対するアプローチを確認。 考え方をチェックしてより効果的なテクニックがないかを考える。 またミックスやマスタリングに関してはあらためて考え方を講義する。				
注意点	何よりも出席重視という事。そして自分以外の人の作品にも興味と考察を深められるようにしたい。 そのことで多くのジャンルやスタイルに対する対応力が着く。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	課題は必ず提出。内容は考慮しない。		
	小テスト	20%	トピックごとに行う		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	50%	出席に重点を置く		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	エフェクトに関する知識①		エフェクトの種類とそれぞれの効果に関して理解する		
2回	エフェクトに関する知識②		音楽におけるエフェクトと映像におけるエフェクトの違いを認識し理解する		
3回	エフェクトの応用①		モデュレーション系エフェクトの効果とサウンドを理解し設定方法を習得する		
4回	エフェクトの応用②		位相変調系エフェクトの効果とサウンドを理解し設定方法を習得する		
5回	コンプレッサーに関する知識①		コンプレッサーの意味とそのサウンド効果を理解する		
6回	コンプレッサーに関する知識②		コンプレッサーの種類を把握し設定法を習得する		
7回	コンプレッサーの応用①		部分コンプレッサーのかけ方を習得し野のサウンド効果を理解する		
8回	コンプレッサーの応用②		全体コンプレッサーの意義を理解しその設定方法を習得する		
9回	シンセサイザー概要		キーボードにおけるシンセサイザーとDTMにおけるシンセサイザーの違いを理解する		
10回	シンセサイザーの種類とサウンド		それぞれのシンセサイザーの種類を把握しサウンドバリエーションを理解する		
11回	シンセサイザーの使用方法①		アナログシンセサイザーの特徴を理解しサウンドキャラクターを加味したうえで使用用途を考察		
12回	シンセサイザーの使用方法②		デジタルシンセサイザーの特徴を理解しサウンドキャラクターを加味したうえで使用用途を考察		
13回	卒業制作（ライブ・合同卒展）①		エフェクト・コンプレッサー・シンセサイザーを用いて作品制作を行う		
14回	卒業制作（ライブ・合同卒展）②		上記作品をミックスダウン～マスタリング作業を行う		
15回	卒業制作（ライブ・合同卒展）③		個々のフォルダーにて「ポートフォリオ」作成し卒業案件とする		

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_b	
科目基礎情報						
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位				授業形態	演習
教科書/教材	自分で制作した楽曲を保存しておけるようなUSBまたはハードディスク					
担当教員情報						
担当教員	二本柳一明 下條 慧			実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー/企業作家	
学習目的						
ポートフォリオ制作に向け、各個人が必要とする能力を習得する。 作編曲・ミックス・音作りなど、多方面からのアプローチにより、楽曲のクオリティー向上を目指す。						
到達目標						
各自が目指すクリエイター像により高いレベルで近づく。 しっかりした裏付けに基づく知識と技術を身につけ、より高レベルなポートフォリオの作成に反映させる。						
教育方法等						
授業概要	主に生楽器を扱いボイシング手法等を学ぶアナログ班と、DTMベースでアレンジを進めるデジタル班に分かれる。 講義等は基本的にその班ごとに行い、演習でさらに細かく個別指導を行うものとする。班の行き来は一定の条件を満たしているならば、可能とする。オプションとして後期には同じ講義内容をもう一度繰り返すので、自分に合う活用法で利用するものとする。 受講生は1週間のうちに添削用の楽曲を準備、授業ではその楽曲の改善指導を行うものとする。					
注意点	指導に、より客観性を持たせるため二人の講師は極力全員の進行状況を把握するよう努める。 弦・管などのセッションレコーディングは9~10月を予定。受講生には自発的に質問・意見を発言する自発性が望まれる。受講生本人が進め方を決める授業なので、躓くたびに自らの力で打開策を見つける必要がある。もちろん教員はその手助けを行う。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。					
評価方法	種別	割合	備 考			
	試験・課題	60%	作品提出の他、トピックごとに宿題あり。			
	小テスト	0%				
	レポート	0%				
	成果発表 (口頭・実技)	0%				
	平常点	40%	出席率および受講態度			
授業計画（1回～15回）						
回	授業内容			各回の到達目標		
1回	5part Voicing①			ストリングスセクションにおける5パートアレンジを習得する		
2回	5part Voicing②			ブラスセクションにおける5パートアレンジを習得する		
3回	5part Voicing③			管弦における5パートアレンジを習得する		
4回	6part Voicing①			ストリングスセクションにおける6パートアレンジを習得する		
5回	6part Voicing②			ブラスセクションにおける6パートアレンジを習得する		
6回	6part Voicing③			管弦における6パートアレンジを習得する		
7回	chord scale voicing①			コードスケールの復習とその仕組みを理解する		
8回	chord scale voicing②			コードスケールの種類と各対応コードを把握しヴォイシングを理解する		
9回	chord scale voicing③			実際にコードスケールを使用した場合のサウンドを分析することにより理解を深める		
10回	対位法①			対位法とは何かを理解する		
11回	対位法②			トラディショナルな音楽での対位法を分析する		
12回	対位法③			ポピュラー音楽での対位法の効果的な利用方法を学ぶ		
13回	卒業制作①			Voicing 対位法を使用してアディショナルアレンジを施す作品を制作		
14回	卒業制作②			制作した作品の最終チェックを行う		
15回	ポートフォリオ発表			合同卒業展への参加 作品視聴をできるように手配をする		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_c	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	自分で制作した楽曲を保存しておけるようなUSBまたはハードディスク				
担当教員情報					
担当教員	川島基宏/原田博之		実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー・作編曲	
学習目的					
楽曲また作曲家等分析することにより、自分がどのような作品を制作するのかを改めて認識し、卒業後の作家としての活動に生かしていくことを目的とする。 後期は「協働制作」をテーマにし、昨今のクリエイターとして必要不可欠なコンテンツを含めた制作を進め音楽だけではなく幅広いクリエイターを目指す。					
到達目標					
分析を基にコンテンツ制作も視野に入れたクリエイターを目標とする。 他人とのコ・ライティング、共同作業によってコミュニケーション能力を高めていく事、そしてそれらにより作品のクオリティを上げていくことを目標とする。 合同卒業展への作品展示・Real Dreamsでの披露等幅広く活用できる作品を制作する。					
教育方法等					
授業概要	前期は主に分析を主とした講義を展開する。音楽の分析はもとより後期に向けてのグルーピングのための各個人の人間分析も行う。 各個人の音楽に対する分析を基に分析課題を行い発表し、方向性の近い学生とチームを作り、後期はチームごとで制作に入っていく。 最終授業内でプレゼン発表会を行う。				
注意点	前期の分析発表会では他人の発表もこまめにノートに記録する。分析結果をもとにグルーピング基準を検討し制作すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	小テスト	0%			
	レポート	30%	課題発表のレポート内容を評価する。		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	発表会での内容を評価する。		
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	映像コンテンツ①		映像の種類・仕組みを理解する		
2回	映像コンテンツ②		制作における手順、必要機材等を把握する		
3回	映像コンテンツ③		動画、静止画収録に関しての講義		
4回	映像コンテンツ④		動画編集①		
5回	映像コンテンツ⑤		動画編集②		
6回	映像音楽に関して①		映画音楽に関して理解を深める		
7回	映像音楽に関して②		アニメーション音楽に関して理解を深める		
8回	映像音楽に関して③		PVに関して理解を深める		
9回	グループ制作①		コンテンツの制作における段取り・依頼・制作に必要な絵コンテ等の準備を行う		
10回	グループ制作②		挿入曲・テーマ曲等曲数の確定・制作　プリプロ音源の制作		
11回	グループ制作③		単発レコーディング　リズムセクションレコーディングのディレクションを行う		
12回	グループ制作④		アディショナルセクションのレコーディング作業を行う		
13回	グループ制作⑤		歌録りをメインに他オーバーダビング～ミックスダウンまでの作業を行う		
14回	グループ制作⑥		コンテンツとの融合の最終チェックを行い修正作業を行う		
15回	まとめ		最終発表会の実施　合同卒業展への作品展示		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	トータル・プロデュース4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	資料は必要に応じて配布します。				
担当教員情報					
担当教員	鈴木一義・永田志実		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
国内における音楽制作環境の多くは、プライベートスタジオと呼ばれる自宅などを中心としたDAW環境に移行されている。1年次では、限られた制作環境の中でいかにクオリティの高い作品を生み出すかについて実践的なアプローチを習得してきた。2年次では、ミックスアプローチをさらに深く掘り下げて、より立体的な音場作りを習得する。また、録音時の集音方法によるサウンドの違いを理解し、実践的なミックスに取り入れる。さらにマスタリングの基礎を学び、完全なパッケージとしてクライアントの要望を的確に捉え、作品のクオリティをさらに高める方法を習得する。					
到達目標					
楽曲制作のポストプロダクションの過程となるミックスの構造を理解し、自身の楽曲におけるミックスアプローチの向上、さらに録音した音をより立体的な音場作りを行う方法の習得を目指す。 音作りにおいて重要となるエフェクト効果の知識を深め、楽曲に合わせたサウンドメイクを行うこと、マスタリング基礎知識を学び、録音ーミックスーマスタリングのプロセスを経て、自身で作品をパッケージ化するまでの方法を習得することを到達目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、1年次に習得したレコーディング技術をさらに深めるとともに、コンプレッサーやイコライザーなどのダイナミクス系エフェクトプラグインやディレイやリバーブなど空間系エフェクトプラグインの使い方を理解し、自作曲にフィードバックする技術力を身につける。また、必要に応じて、マイクブリアンプやコンプレッサーの実機を使用し、適正レベルでのレコーディングを行える技術力を習得する。最終的には一般に流通している音源と差異のないレベルの作品を仕上げることを目的とする。				
注意点	授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ→標準フォンプラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	DAWルームでの環境作り		各自のDAW環境に合わせ、DAWルームでレコーディングが行えるよう正しい知識を身につける		
2回	ボーカルディレクション(1)		CM音源など、短い作品を録音する際のボーカルレコーディングを身につける		
3回	ボーカルディレクション(2)		ボーカル曲など、一般的な作品を録音する際のボーカルディレクションを身につける		
4回	オリジナルループの作成(1)		環境音やノイズなど、独自の素材を使用しループ素材を制作する		
5回	オリジナルループの作成(2)		環境音やノイズなど、独自の素材を使用しループ素材を制作する		
6回	リバーブ(1)		ホールリバーブ、ルームリバーブを理解する		
7回	リバーブ(2)		プレートリバーブ、ゲートリバーブを理解する		
8回	ディレイ		ディレイの特徴、使用法を理解する		
9回	トラックダウン(3)		自作曲に対してのミックスアプローチを理解する		
10回	トラックダウン(4)		自作曲に対してのミックスアプローチを理解する		
11回	マスタリング(1)		マスタリングの必要性を理解する		
12回	マスタリング(2)		マスタリングスタジオにおける実作業を理解する		
13回	マスタリング(3)		マスタリングの調整法を理解する		
14回	トータル・プロデュースとは		年間を通した授業内容のまとめ、及び作品に対する総合的な判断力を身につける		
15回	総合試験(発表会)		作品に対する総合的な発表力を身につける		